

高砂市 新たな学校づくり通信

～こどもたちに最適な教育環境を提供するために～

vol.
10

■ 『みんなで考える高砂市の新たな学校づくり

～これからの学校のあり方を考えよう！～』を実施しました！

審議会では、さまざまなテーマを設定し、こどもたちにとってより良い学びの場をつくるために、これからの学校のあり方について検討を行っています。あわせて、これからの学校像の具体化に向けて、さまざまな方から各テーマに関連したご意見をいただきました。いただいたご意見は審議会での議論に活用し、『高砂市新たな学校づくり推進計画』の策定に繋がります。

<意見聴取の実施一覧>

実施日	対象	方法	参加・回答人数
5/30～6/15	市立小中学校の教職員	WEBアンケート	116
6/25・7/23	市立小中学校の教頭先生	ワークショップ	16
6/24～7/10	児童	ヒアリング	56
7/16～7/25	生徒	WEBアンケート	57
8/5	生徒	ワークショップ	30
8/23	児童生徒	ワークショップ	10
9/3～9/24	市立就学前職員	WEBアンケート	219
9/20・9/28	市民	ワークショップ	30



■ 意見のまとめ

適正規模 適正配置	児童	2～3クラスの回答が最も多く、「クラス替えができる」「みんなのことをよく知れる」という意見がある。
	生徒	4～5クラスの回答が最も多く、「新しい人間関係が築ける」「行事が盛り上がる」という意見がある。
	教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校は2～4クラス、中学校は4～6クラスが適している。単学級の場合、教員の業務量増加や相談相手の不足等の不安の声が挙げられた。 ・小学校は4km・30分以内、中学校は6km・60分以内の回答が最も多い。通学時の安全面や体力面を考慮した対応策が必要との意見がある。
	就学前職員	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校は2～3クラス、中学校は4～6クラスが適しているとの回答が最も多く、「クラス替えができ環境の変化がある」「多様な関わり方ができる」という意見がある。 ・小学校は4km・30分以内、中学校は6km・60分以内の回答が最も多い。国の基準以上は安全面や熱中症へのリスクが高まることへの不安の声がある。また、中学生においては自転車の使用を前提とする意見が多かった。
	市民	「財政効率・行政効率だけではなく、教育効果・教育観点の検証が必要」「クラス替えができないのは問題」という意見がある。
連続性のある小中 一貫教育	児童	「9年間同じ場所で過ごせる」「たくさんの人と関わっていい経験ができる」等の肯定的な意見がある一方で、「遊具や自由なスペースが狭くなる」「新しい友達ができずに飽きる」という意見もある。
	生徒	「9年間を見通したカリキュラムになるのはいい」「絆が深まり仲良く過ごせそう」等の肯定的な意見がある一方で、「環境が変わらず成長する機会や人間関係を築く機会が少なくなる」という意見もある。
	教職員	小中一貫教育の形態としては施設分離型・隣接型を望む声が最も多く、推進にあたっては担当者がほしいとの意見がある。
	就学前職員	就学前施設との関係において、施設併設型を望む声が最も多く、「連携が取りやすく互いを知る機会が増えることで就学への不安が和らぐ」という意見がある。

教職員の働く環境	教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・教育業務に専念できる人員配置(専門員、委託等)を望む声がある。 ・広く明るく快適で、休憩や打ち合わせができるスペース、更衣や収納などの設備が整い、通信環境(Wi-Fi・内線・校務用端末など)や空調も充実した安心して働ける職員室が望まれている。
	市民	先生方が安心して働ける環境を整えることがこどもの充実した教育につながるという意見がある。
給食	児童	バイキングやビュッフェ形式、校内に食堂や売店の設置を望む声がある。
	生徒	食堂の設置や給食・弁当・学食を選べるようにしてほしいという意見に多くの票が集まった。
	教職員	給食事務の多さや栄養教諭の配置を望む声がある。また、給食方式については、小学校は自校式を継続したほうが良いという回答が最も多い。
プール	児童生徒	屋内プールや屋根付きプールの設置、プール授業の選択制も有りではないかという意見がある。
	教職員	プール授業や維持管理を民間委託できないかとの意見がある。
	市民	身を守るための術は身に付ける必要があるとの意見がある。
不登校支援サポートルーム	教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・支援員の増員、サポートルームの役割や位置づけの検討が必要という意見がある。 ・部屋を区切れるようパーテーション等の設置を望む意見もある。
	就学前職員	こどもたちの居場所づくりについて、学校だけでなく、こども園を含む地域での取り組みが必要になってくるという意見がある。
	市民	「職員の専門性やスキルも大事ではないか」「オンライン授業を受けられないか」という意見がある。
特別支援教育	教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者だけでなく、教師も相談できる窓口の設置を望む声がある。 ・1クラスの上限を減らし、人員(介助員・コーディネーター等)の増員を望む意見も多い。
	就学前職員	家庭・児童発達支援施設・こども園・学校の連携がより必要になってくるという意見がある。
	市民	人員の確保、必要に応じたシャワーやトイレの設置を望む意見があった。
家庭・地域連携	教職員	学校のできることが分かりにくいので、コーディネーターの配置や地域とマッチングできる仕組みづくりを望む意見がある。
	就学前職員	地域全体でこどもたちを見守れる環境づくりを望む意見がある。
	市民	学校の統廃合により、地域コミュニティが弱体化するのではないかと不安の意見があった。
施設・設備・教育環境	児童	室内で遊んだりゴロゴロしたりできる場所など自由空間の確保、全教室にエアコンの設置、ロッカーの完備、トイレの洋式化などを望む意見があった。
	生徒	清潔で整った校舎や設備、居場所のある環境づくり、学びたいことを学べるように授業の選択制を望む意見があった。
	教職員	防犯カメラの設置や警察の常駐などによる安全安心の確保、新しい時代の学びが実施しやすいスペース、AIドリルやリモート授業の導入なども含めた学習環境の整備、空調や鍵の一括管理を望む意見があった。
	就学前職員	軽量タブレットなど学習機器の改善、暑さ対策の実施やスクールバスの導入、明るいトイレや多目的教室、地域や保護者と連携できるミーティングルームの整備など、教育・支援・生活環境を支える柔軟で充実した施設・設備の整備を望むといった意見があった。
	市民	防犯カメラの設置、スクールバスを導入した場合にはどのバスに乗車しているかわかるシステムの構築、トイレの改修、オンライン授業の実施などを望む意見があった。

※市民ワークショップの資料や各対象からいただいたご意見は、ホームページに掲載しております。

■ 今後について

お忙しい中、ご参加・ご回答いただきありがとうございました。
 いただいたご意見を踏まえてまとめた、これからの学校像などの内容につきましては、説明会の開催を予定しています。
 今後とも、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

これからの学校のあり方を考えよう！

